平成29年度
第1学年

授業シラバス
年間指導計画

国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，
技術家庭（技術分野・家庭分野），英語，サイエンス

教　科　名	年間授業時数	学　年
国語	１５６	1

授 業 形 態	指 導 者 名
一斉授業	早瀬真由美・山本千尋

教科書（発行所）	中学校国語１（学校図書）・中学校書写（学校図書）
教科書以外の教材（発行所）	ウイニングPLUS中学校問題集　国語１　（好学出版） 楽しく学べる文法ノート　（新学社） 意味から学ぶ頻出漢字　（第一学習社） 国語便覧　（浜島書店）

目　　標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	○読む １．家族の中で ・物語の構造や文学の言葉の力を知り、言葉一般の大切さに気づく。 ２．命の鎖 ・説明的文章や詩を読み、文章の展開や構成に即して書き手の主張を正確に捉える。 ３．出会いと発見 ・説明的文章や文学的文章を読み、他者との出会いとそこで交わされる言葉の大切さについて考える。 ４．時を越えて ・古典の受容と継承について考え、未来の創造につなげる。 ５．関係の中で ・中学校一年間で獲得してきた言葉の力を自分に向け、自己の生き方に生かす。 ○読書 ・様々な種類の文章を読み、読書の世界を広げる。 ○表現 ・スピーチやグループ・ディスカッションの手法を学び、自分の意見を伝える。 ・情報を集めて、取捨選択し、わかりやすく伝える工夫をする。 ○文法 ・言葉の単位・文の組み立て・指示する語句と接続する語句などについて理解する。 ○書写 ・漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書く。 ・漢字の行書の基礎的な書き方を理解する。		
定期考査	出題方針	教科書の内容と文法ノートの問題を中心に出題する。	
	範　囲（予定）	第１回考査	「風呂場の散髪」「字のない葉書」「漢字を見抜く１」
		第２回考査	「兄やん」「ものづくりに生きる」「変わる動物園」「漢字を見抜く２」
		第３回考査	「奈々子に」「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」「知識の樹木」「空飛ぶ魔法のほうき」「漢字を見抜く３」
		第４回考査	「ぬすびと面」「片言を言うまで」「言葉の向こうに」「漢字を見抜く４」「姫の物語？翁の物語？」「とらわれた心に突き立つ矢」
		学年末考査	「故事成語」「まなちゃんの道」「少年の日の思い出」「シェークｖｓバナナ・スプリット」「漢字を見抜く５」
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は国語への「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の５項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理する。また、各教材末に置かれている「学びの窓」や授業中に示される問題を考える。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すのは当然だが、他の生徒の発言にも注意して、ノートをとる。復習としてその日のうちに再度、教科書・ノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておくこと。 なお、課題として配布している問題集は、解答の際に解説をよく読み込み、理解を深めることが大切である。		

年間授業計画表（４５分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「ふろ場の散髪」	6	・主人公の心情の変化を登場人物の会話を中心にたどる。 ・人物の行動から人物像を理解する。
	5	「字のない葉書」	5	・登場人物の心情の変化を読み取る。 ・内容の中心となる一文について考える。
		「漢字を見抜く１」 《第１回考査》	2	・漢字の成り立ちについて理解する。
	6	「兄やん」	5	・心情や思考を描く表現から、状況の中での人物の考えを理解する。 ・人物像について話し合う。
		「ものづくりに生きる」	4	・取材に基づく文章を読み、そこに紹介された人物や筆者の考え方や生き方について考える。
		「話す・聞く１」	2	・何を伝えたいかをはっきりさせて、わかりやすく効果的なスピーチを行う。
	7	◎「楷書を書こう」	4	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
		「変わる動物園」	5	・筆者の思考の展開に即して、伝えようとしている内容をまとめる。 ・要旨をまとめる。
		「漢字を見抜く２」 《第２回考査》	2	・漢字の声符について理解する。
		◎「楷書と仮名を書こう」	4	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
	9	「奈々子に」	4	・表現に注意して、詩に込められたメッセージを読み取る。 ・詩を読んで、新たに気づいたことについて話し合う。
		「何にでも値段をつける古道具屋のおじさんの詩」	3	・詩の展開に沿って作者の問いかけについて考えながら読む。
		「知識の樹木」	4	・筆者の体験を読み取り、体験から気づいたことの表現の仕方を考える。
後期	10	「空飛ぶ魔法のほうき」	4	・筆者の考えとエピソードの関係について考える。
		「漢字を見抜く３」 《第３回考査》	2	・漢字の部・部首・部首名について理解する。
	11	「ぬすびと面」	5	・モチーフと主題との関係について考える。 ・主人公の気持ちの変化とその理由について考える。
		「片言を言うまで」	5	・文章全体を通じて表れる主題や筆者像について考える。 ・副題を付けることで文章の主題を表現する。
		「言葉の向こうに」	2	・歴史的仮名遣いなどの古典の基礎知識を理解する。
		「姫の物語？翁の物語？」	6	・「竹取物語」の原文を音読し、古文の調子に慣れる。
	12	「とらわれた心に突き立つ矢」	4	・傍訳を参考にしながら原文を読み、物語の場面展開をとらえる。
		「漢字を見抜く４」 《第４回考査》	2	・漢字の起こり、書体の変遷について理解する。
	1	◎「行書を書こう」	5	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。
	2	○百人一首	4	・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。
		「故事成語」	6	・故事成語の成り立ちについて理解する。 ・故事成語のもとになった話を書き下し文で読み、内容を理解する。
		「まなちゃんの道」	4	・筆者の思いを読み取り、自分の在り方を表現する言葉について考える。
		「少年の日の思い出」	6	・作品の展開を読み取りながら、登場人物の心情の移り変わりをとらえる。 ・登場人物の人間関係をとらえ、人物の行動の意味を理解する。
		「シェークVSバナナ・スプリット」	3	・作品についての感想を持ち、感想に基づいて交流する。
	3	「漢字を見抜く５」 《学年末考査》	2	・旧字体と新字体について理解する。
		「ストロベリーフィールズの風に吹かれて」	4	・筆者の心の動きを伝える言葉を探る。
		「二十年後」	3	・小説の中の人生の機微について考える。
		「言葉の学習」	4	・一年生の語句・語彙の学習を深める。
通年		演習	35	「文法ノート」の解説を読み、言葉の単位・文の成分等について学習する。
		総時間数	156	

教　科　名	年間授業時数	学　年
社会科	１１７	1

授 業 形 態	指 導 者 名
前期：一斉授業　後期：一斉授業	杉山　雄泰

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	歴史資料集（浜島書店）　ビジュアル地理・地理ワーク（東京法令）他

目　　標	・世界の姿，日本の姿をみるのに必要な地理的事象を理解する。また，地球儀，地図，資料の活用ができる技能を身に付ける。 ・地理的な見方や考え方の基礎を培いつつ，身近な地域や都道府県，世界の国々などを多面的・多角的に捉える力を養う。 ・歴史的事象の学習を通して，時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また，各時代の政治のしくみ，人々の生活，文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 ・自ら課題を設定し，自ら調べ，課題を解決していける力を身に付ける。		
学習のねらい	（地理的分野） ・地球表面のようすを地球儀や世界地図を活用して捉え，地球上の位置の表し方や球面上の位置関係を捉える技能や知識を身につける。 ・地球儀や世界地図，各国の資料を活用し，世界の地域区分や国々の名称と位置などをもとにして世界の諸地域の特色を説明できる。 ・地球儀や地図を活用して，世界的視野からみた国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究できる。 ・日本地図を活用して，47 都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉え，日本の略地図がかけるようになる。 ・都道府県の地域調査を始めるにあたって，県を調べる際の地域調査の一般的な方法と手順を理解する。 ・市町村規模の地域や都道府県規模の地域の調査と比較しながら，国家規模の地域を調査する際の一般的な方法を獲得する。 ・わが国の地域的特色を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つの面から追究し，理解する。 ・世界的視野からみた日本の地域的特色と日本全体の視野からみた諸地域の特色を考察する。 （歴史的分野） ・原始，古代，中世，近世までの大きな時代の流れを捉えさせ，それぞれの時代の特色を多面的・多角的にとらえることができる力を培う。 ・各時代の歴史的事象を説明することができ，その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 ・自ら歴史的事象を選び，地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容，使用している副教材の内容から出題する。	
	範　囲 （予定）	第１回考査	・世界の姿をとらえよう・世界の人々の生活と環境
		第２回考査	・歴史のとらえ方　・古代までの日本
		第３回考査	・中世の日本
		第４回考査	・近世の日本　　・世界の諸地域
		学年末考査	・世界の諸地域　・地歴の総合的な問題
評価の観点・ 評価の方法	①社会的事象への関心・意欲・態度　②社会的な思考・判断・表現 ③資料活用の技能　④社会的事象についての知識・理解 上記４項目について，授業（ノート・発表等），提出物，レポート，定期考査で総合的に評価する。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	授業者の質問が，社会科の見方・考え方の重要なポイントになっています。積極的に答えると同時に，他の人の意見も十分に聞き，ノートに積極的に記録するようにしてください。また，資料を使う力をしっかり身に付けるために地図帳，資料集は十分に活用しましょう。		

年間授業計画表（４５分授業）				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4 5	（！）世界の様々な地域 ア　世界の姿をとらえよう イ　世界の人々の生活と環境 《第１回考査》	15 10 12	・世界の国々 ・地球の姿（三大洋、六大陸・州） ・世界の地域と国々（形・国境線） ・統計資料の読み方・地球儀と地図 ・緯度・経度・時差・日本の位置 ・略地図 ・世界の様々な食事 ・気候や地形と生活 ・宗教と生活 ・世界各地の人々の生活をまとめよう
後期	6 7	１歴史の流れをとらえよう ２古代までの日本 《第２回考査》	10 11	・歴史学習の基礎知識 ・身近な地域の歴史 ・時代の移り変わりを調べる ・日本の原始時代 ・古代国家の形成 ・古代国家の展開 ・奈良や平安の文化 ・歴史新聞をつくろう（原始・古代編）
	10 11	３中世の日本 《第３回考査》 ４近世の日本①	12 12	・鎌倉幕府の成立 ・南北朝の動乱と室町幕府 ・東アジアの国際関係 ・応仁の乱後の社会的な変動 ・諸産業の発達 ・都市や農村の自治的な仕組みの成立 ・禅宗の文化的な影響 ・戦国の動乱 ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響 ・織豊政権と統一事業，対外関係
期	12 1 2 3	ウ　世界の諸地域 《第４回考査》 エ　世界の様々な地域の調査 《学年末考査》	10 8 11 6	・アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オセアニア二関して，生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 ・適切な主題を設定して，調査発表をする学習
		総時間数	117	

教　科　名	年間授業時数	学　年
数　学	１５６	１

授　業　形　態	指　導　者　名
一斉授業	白神宏明，妹尾喜行

教科書（発行所）	新しい数学１	（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	体系数学１　代数編	（数研出版）
	体系数学１　幾何編	（数研出版）
	体系問題集１代数編　発展　完成ノート	（数研出版）
	体系問題集１幾何編　発展　完成ノート	（数研出版）

目　　標	数学的活動を通して，数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め，数学的な表現や処理の仕方を習得し，事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。		
学習のねらい	１「数と式」領域 ・具体的な場面を通して，正の数と負の数について理解し，その四則計算ができるようにするとともに，正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。 ・文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに，文字を用いた式の計算ができるようにする。 ・方程式や不等式について理解し，一元一次方程式，連立二元一次方程式や不等式を用いて考察することができるようにする。 ２「図形」領域 ・観察，操作や実験などの活動を通して，見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに，論理的に考察し表現する能力を培う。 ・観察，操作や実験などの活動を通して，空間図形についての理解を深めるとともに，図形の計量についての能力を伸ばす。 ３「関数」領域 ・具体的な事象の中から二つの数量を取り出し，それらの変化や対応を調べることを通して，比例，反比例，一次関数の関係についての理解を深めるとともに，関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。 ４　「資料の活用」領域 ・目的に応じて資料を収集し，表やグラフに整理し，代表値や資料の散らばりに着目して，その資料の傾向を読み取ることができるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容，問題集を中心に出題する。	
	範　囲 （予定）	第１回考査	正の数と負の数
		第２回考査	式の計算，方程式
		第３回考査	不等式，関数
		第４回考査	関数，資料の整理と活用
		学年末考査	平面図形，空間図形
評価の観点・評価の方法	評価の観点は「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量，図形などについて知識・理解」の４項目とする。 具体的な評価は，定期考査を中心に，授業への取り組み，小テスト，提出物の状況等から総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方など）	予習については，教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については，問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には，しっかり集中して臨み，わからないことはその場で先生に質問するか，休み時間，放課後等を利用して質問にくることで，その日のうちに理解するように心がけましょう。ノートについては，黒板を写すだけでなく，自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて，後から確認して分かりやすいノートとなるように工夫してみましょう。		

年間授業計画表（４５分授業）				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	正の数と負の数	2	・正の数，負の数の性質や関係を調べることができるようにする。
		加法と減法	5	
		乗法と除法	5	・正の数，負の数の四則計算の意味を正しく理解し，計算ができるようにする。
		四則の混じった計算	4	
	5	章末問題	4	
		文字式	2	・文字を用いて数量を簡潔に表現できるようにする。
		《第１回考査》		
	6	多項式の計算	4	・多項式の加法・減法の計算や数と１次式の乗法の計算，単項式の乗法，除法の計算が正しくできるようにする。
		単項式の乗法と除法	4	
		文字式の利用	3	
		章末問題	4	
	7	方程式とその解	1	・等式の性質を見いだし，それにもとづいて方程式を変形して解くことができるようにする。
		１次方程式の解き方	4	・方程式を能率よく解くことができるようにする。
		連立方程式	5	・方程式を利用して，問題を解決することができるようにする。
		方程式の利用	4	
		章末問題	4	
	8	《第２回考査》		
	9	不等式の性質	2	・不等式の性質を見いだし，それにもとづいて不等式を変形して解くことができるようにする。
		不等式の解き方	2	
		不等式の利用	3	・不等式を利用して，問題を解決することができるようにする。
		連立不等式	3	
		章末問題	3	
後期	10	変化と関数	2	・表，式，グラフを用いて，比例，反比例，１次関数の特徴を調べることができるようにする。
		比例・反比例とグラフ	7	
		比例・反比例の利用	3	・関数的な見方や考え方で，２元１次方程式を見直すことができるようにする。
		１次関数とグラフ	4	
		１次関数と方程式	3	
		《第３回考査》		
	11	１次関数の利用	3	・具体的な事象の考察に，１次関数を活用することができるようにする。
		章末問題	4	
		資料の整理	2	・ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解することができる。
		代表値と散らばり	2	
		近似値と誤差	2	・ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明することができる。
		章末問題	2	
	12	《第４回考査》		
	1	平面図形の基礎	4	・線対称，点対称の意味を理解し，平面図形を対称性に着目して調べることができるようにする。
		対称な図形	4	
		図形の移動	2	・角の二等分線などの作図の方法を理解し，作図することができるようにする。
		作図	6	
		面積と長さ	3	・さまざまな図形の面積や長さを求めることができるようにする。
		章末問題	4	
	2	いろいろな立体	3	・空間図形を直線や平面の運動によって構成することができるようにする。
		空間における平面と直線	5	
		立体のいろいろな見方	5	・空間図形を平面上に見取図や展開図を用いて表現することができるようにする。
		立体の表面積と体積	6	
		章末問題	4	・基本的な柱体，錐体の表面積と体積を求めることができるようにする。
	3	《学年末考査》		
		１年生のまとめ	8	
		総時間数	156	

教 科 名	年間授業時数	学 年
理科	117	1

授 業 形 態	指 導 者 名
一斉授業	橋田　千寿

教科書（発行所）	未来へひろがるサイエンス 1（ 啓林館 ）
教科書以外の教材（発行所）	中学実力練成テキスト　理科１年,２年（文理）

目　　標	自然の事物・現象に進んでかかわり，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な見方や考え方を養う。		
学習のねらい	[生命] 身近な植物についての観察・実験を通して，生物の調べ方の基礎を学習するとともに，植物の体のつくりやそのはたらきを理解させ，植物の世界についての総合的な認識を深める。 [地球] 野外観察や実物観察で見たものは，地球史の中で絶えず変化している大地の一瞬の姿でしかないことを実感させ，地球は今も活きているダイナミックな星であることを認識させる。 [物質] さまざまな物質の存在に興味をもたせるとともに，その物質を区別する性質の調べ方を理解させる。また，物質の状態の変化を粒子モデル化して説明できるようにする。 [エネルギー] 身近で起こる光・音・力に関するさまざまな現象を，観察や実験によって解決していくプロセスを通して，それぞれの性質や規則性について理解させる。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，教材プリントなどから出題する。	
	範　囲 （予定）	第１回考査	「生命」植物のくらしとなかま（問題集，実験・観察）
		第２回考査	「生命」植物のくらしとなかま 「物質」身のまわりの物質（問題集，実験・観察）
		第３回考査	「物質」身のまわりの物質 「エネルギー」光・音・力による現象（問題集，実験・観察）
		第４回考査	「エネルギー」光・音・力による現象 「地球」活きている地球（問題集，実験・観察）
		学年末考査	「地球」活きている地球 1年間のまとめ（問題集，実験・観察）
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は，自然事象への関心・意欲・態度，科学的な思考・表現，観察・実験の技能，科自然事象についての４項目とする。 ○評価の方法は，定期考査を中心とし，授業への取り組みのようす，ノート，課題の提出などをもとに，総合的に行う。また，実験など自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	理科の学習は、自然の事物・現象について学んでいく学問です。 日常生活で身のまわりのことに対して，「なぜだろう」と考えながら注意して観ること，自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また，実験・観察を通して得られたことを図やグラフを書いて事実に合うように考察し発表する態度を身につけることも大切です。		

年間授業計画表

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	自然の中に生命の営みを見つけてみよう	6	○校庭や学校周辺の生物の観察を通し，いろいろな生物がさまざまな場所に生活していることに気づかせ，基本的な観察技能，観察記録のしかたを身につけさせる。
	5	「生命」植物のくらしとなかま	(26)	○植物が生きるためのさまざまな工夫に気づき，植物の不思議に目を向ける。
		植物という「いきもの」	2	○植物が地球上の生命を支えていること，植物が動物と異なるしくみをもつ生物であることなどを話し合い，植物についての興味・関心を高める。
		1章　花のつくりとはたらき	5	○いろいろな花の観察を行い，その観察記録に基づいて，花の基本的なつくりの特徴を見いだすとともに，それらを花のはたらきと関連づけてとらえさせる。
		2章　水や栄養分を運ぶしくみ	4	
		3章　栄養分をつくるしくみ	7	
		4章　植物のなかま分け	4	
		世界最大の花・世界最小の花	3	○　いろいろな植物の根と茎の観察を行い，観察記録に基づいて，基本的なつくりの特徴を見いだすとともに，植物体内の物質の移動と関連づけてとらえさせる。
		力だめし	1	
	6			○葉の観察を行い，その観察記録に基づいて，葉のつくりの特徴を見いだすとともに，それらを光合成に関する実験結果と関連づけてとらえさせる。
				○花や根・茎・葉の観察記録に基づいて，それらを相互に関連づけて考察し，植物が体の特徴に基づいて分類できることを見いだす。
	7	「物質」身のまわりの物質	(31)	○身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ，物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだすとともに，実験器具の操作，記録の仕方などの技能を身につけさせる。
		窓に利用されるもの	1	
		1章　いろいろな物質とその性質	7	○気体を発生させてその性質を調べる実験を行い，気体の種類による特性を見いだすとともに，気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につけさせる。
		2章　いろいろな気体とその性質	5	
		3章　水溶液の性質	6	○物質が水に溶ける様子の観察を行い，水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いださせる。また，水溶液から溶質を取り出す実験を行い，その結果を溶解度と関連づけて理解させる。
	8	4章　物質のすがたとその変化	8	
	9	海水から真水をつくる	2	
		力だめし	2	○物質の状態変化についての観察，実験を行い，状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いださせる。また，物質の状態が変化するときの温度の測定を行い，物質は融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見いださせる。
	10			
後期		「エネルギー」光・音・力による現象	(31)	○身のまわりには，金属やプラスチックなどでできたいろいろなものがあり，それらはさまざまな特徴があることに気づかせるとともに，それらを区別する方法について考えさせる。
	11	身のまわりには，どのようなしくみがかくされているのだろうか	2	○身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ，物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだすとともに，実験器具の操作，記録の仕方などの技能を身につけさせる。
		1章　光による現象	8	
		2章　音による現象	6	○気体を発生させてその性質を調べる実験を行い，気体の種類による特性を見いだすとともに，気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につけさせる。
		3章　力による現象	12	
	12	光，音，力と科学技術	1	
		力だめし	2	○物質の状態変化についての観察，実験を行い，状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いださせる。また，物質の状態が変化するときの温度の測定を行い，物質は融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見いださせる。
	1			
		「地球」活きている地球	(23)	○野外観察や実物観察で見たものは，地球史の中で絶えず変化している大地の一瞬の姿でしかないことを実感させ，地球は今も活きているダイナミックな星であることを認識させる。
		地球内部の謎にせまる	1	○伊豆半島が長大な時間の中で移動してきたことを紹介し，地球が絶えず活動している活きた星であることに興味をもたせる。また，プレートテクトニクスの概要を把握させる。
		1章　大地がゆれる	5	
	2	2章　大地が火をふく	5	○さまざまな火山の活動を調べさせ，それらの活動の様子はマグマの性質が深く関係していることを考察させるとともに，マグマからできる火成岩の特徴を，観察を通して理解させる。
		3章　大地は語る	10	
		堆積物から過去の津波にせまる	1	○地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解させるとともに，記録の整理により地震のゆれの伝わり方を見いださせる。また，震源・震央の分布をプレートの動きと関連づけて理解させる。
		力だめし	1	
	3			○地層を構成する岩石や化石を手がかりとして，地層が堆積した時代や当時の環境を推測させるとともに，野外での観察や実験を通して，地層のでき方や重なり方の規則性を理解させる。また，大地の変動が断層や地形として記録されていることに気づかせるとともに，これら大地の変動を統合的に把握させる。
		総時間数	117	

教　科　名	年間授業時数	学　年
音楽	５０	1
授　業　形　態	**指　導　者　名**	
前期：一斉授業　後期：一斉授業	平松　泰一・西岡　忠　・小林　豊子	

教科書（発行所）	中学生の音楽１ 中学生の器楽	（教育芸術社） （教育芸術社）
教科書以外の教材（発行所）	音楽ノート 愛唱歌集	（岡山県中学校教育研究会） （岡山県中学校教育研究会）

目　　標	音楽活動の喜びや感動を体験させるとともに， 進んで音楽活動をしようとする意欲を養う。		
学習のねらい	１　歌唱 豊かな響きを工夫し，言葉の抑揚やリズムを生かして美しい発音で歌う。 他の声部や，全体の響きに気をつけて合唱する。 ２　器楽 楽器の基礎的な奏法を身につけ，美しい音色を工夫して演奏する。 伴奏の形やとけ合いを意識して合奏表現ができる。 ３　創作 歌詞や楽器にふさわしい旋律を創り，表現する。 リズムフレーズや短い旋律を創る。 ４　鑑賞 楽曲の雰囲気や曲想と諸要素の働き，声や楽器の音色と組み合わせによる響きと効果，我が国及び諸外国の民族音楽の特徴などを感じ取って聴く。		
定期考査	**出題方針**	教科書の内容を中心に，音楽ノート，プリントなどから出題する。	
	範　囲 （予定）	第１回考査	無し
		第２回考査	校歌，well find The Way，春，主人は冷たい土の中に，エーデルワイス，パフ，魔王，浜辺の歌，リコーダー奏法・運指
		第３回考査	無し
		第４回考査	無し
		学年末考査	赤とんぼ，カリブ夢の旅，日本の楽器，アジア諸国の音楽，映画音楽，リコーダー運指
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，音楽への関心・意欲・態度，音楽的な感受や表現の工夫， 表現の技能，鑑賞の能力の４項目とする。 ○具体的な評価は，授業への取り組み，ノート，授業プリントの提出状況， 歌のテスト，リコーダーのテストなどを総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	・音楽の世界は，範囲も種類も広く，日常親しんでいる音楽も多岐にわたって様々です。いろいろな種類の，いろいろな様式の音楽に興味，関心をもち，知識・技能などを意欲的に学んでいきましょう。 ・歌唱，器楽及び創作の活動を，単に楽譜上の記号を音に変換する行為にしてしまわず，歌ったり，演奏したりすることが，自分の生活の中での驚き，発見，喜び等を思い起こすものになるように積極的に活動していきましょう。 ・基礎，基本を身に付け，個々の目標や課題を見つけて楽しく音楽にかかわっていきましょう。 ・毎時間忘れものをせず，提出物（ノート，プリント）を必ず出すようにしてください。		

年間授業計画表（４５分授業）				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	明るい歌声を響かせよう We'll Find The Way 主は冷たい土の中に My Voice	5	希望を胸に，明るくおおらかに歌う。 互いの歌声の響き合いを楽しむ。
	5	イメージと音楽の関わりを感じ取ろう 和声と創意の試み『四季』より春 エーデルワイス	7	標題を手がかりに，音楽の内容や音楽による表現のすばらしさを感じ取る。曲の構成に気をつけながら曲想の変化を感じ取る。 曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取る。
	6	ヘ音譜表の理解と合唱の基礎 パフ 飛び出そう未来へ	6	パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取る。 歌詞の内容を感じ取り拍の流れにのって歌う。
	7	フレーズの特徴を生かした表現 浜辺の歌 《第２回考査》	6	日本語の美しさを生かした旋律，伴奏の形に関心をもちながら表現する。
	8			
	5 ～ 3	リコーダに親しもう ※この題材は器楽の教科書のリコーダー曲を継続して行う		アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付け正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
	9	詩の内容と曲想の変化との関わり 赤とんぼ カリブ　夢の旅	5	歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取る。 速度や強弱の変化を生かした表現する。
後期	10	詩と音楽との関わりを感じ取ろう 魔王	4	旋律と伴奏が一体となった曲想を感じ取る。 劇的な音楽の内容や，曲想の変化・表現の効果などを感じ取る。
	11	日本の音楽 尺八 箏	4	日本の伝統音楽に使われる楽器の音色の美しさを味わう。 楽器の音色や独特な奏法を味わい，日本の楽器の音楽に親しむ。
	12	日本の民謡やアジアの諸民族の音楽 日本の民謡 アジア諸民族の音楽	3	日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴をとらえることで、音楽の多様性を感じ取り、そのよさや美しさを味わう。
	1	いろいろな映画音楽 ＥＴ「フライング・テーマ」 ロッキー「ロッキーのテーマ」 ジョーズ「ジョーズのテーマ」	3	様々な演奏効果により表現される音楽を，場面をイメージして聴く。
	2 3	卒業式に向けて 《学年末考査》	7	各声部の役割を生かし，全体の響きに調和させて合唱をする。
		総時間数	５０	

教　科　名	年間授業時数	学　年
美術	５０	1

授　業　形　態	指　導　者　名
一斉授業	中村　文香

教科書（発行所）	美術Ｉ　　出会いと広がり　（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目　　標	描く活動とつくる活動のいずれも経験することで、自然や身近なものを深く観察する力、感性や想像力を高め豊かに発想し構想する能力等をとらえ表現する基礎的技能を育てる。また鑑賞の能力を高めることで、自然や美術作品等についての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさ等を感じ取る力を養う。		
学習のねらい	１　絵画・彫刻などの活動を通して 自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえスケッチすることを学ぶ。また対象を深く見つめることで、ものの見え方、感じ方を広げ深める力を育てる。 ２　デザイン・工芸などの活動を通して 形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美的感覚を働かせて美しく構成したり装飾したりすることを学ぶ。また材料などから発想し構想を練り、作り方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付け、創意工夫することでより高い完成度を目指すことができる。 ３　鑑賞 自然、美術作品や生活の中の造形などを鑑賞に親しみ、意欲的によさや美しさなどを味わったり作品などに対する理解や見方を広げたりして、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする姿勢を身に付ける。		
定期考査	出題方針	教科書を中心に、美術資料、授業プリントなどから出題する。	
	範　囲 （予定）	第１回考査	無し
		第２回考査	三原色による混色、水彩画の技法、鑑賞問題（予定）
		第３回考査	無し
		第４回考査	無し
		学年末考査	スケッチ、文字のデザイン、木工、鑑賞問題(予定)
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，美術への関心・意欲・態度，発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力の４項目とする。 ○準備物や意欲的な態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・仲間との協力・教室での会話など，制作過程での観点別達成度，作品の完成度の判定，単元後の感想文による鑑賞能力判定の３つのポイントを統合して評価する。 ○作品に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	あのモナリザを描いたレオナルド・ダ・ヴィンチは言いました。「知ることは愛することだ。知ることが広がれば，いっそう愛することは深くなる。」美術では描いたり，作ったりすることで身の回りの人や自然の美しさを感じ，それを愛する気持ちを育てていくのです。「自分は絵が苦手だ」「工作すると失敗ばかり」という人へ。その気持ちは教室の入り口に置いてから入りましょう。今日のあなたは昨日よりも成長しているし、今日学ぶ学習は新しいステージだからです。自分のよさや独自性を信じて発表したり、アイデアを出したり、楽しみながらも全力を傾けましょう。また、納得のいく表現に到達するために、道具や材料の特性を確かめながら粘り強く練習を重ね、よりよくしようと努力しましょう。		

年　間　授　業　計　画　表（４５分授業）

学期	月	学　習　内　容	時数	学習のポイント
前期	4	「オリエンテーション」 ・美術の時間の決まりや必要な道具についての説明をきく ・班ごとのチームに分かれ、造形ゲームをする。	1	・美術の時間の決まりや必要な道具を知り、１年間の流れを知る。 班の友達とのコミュニケーションを楽しむ。
	5 6	「五感をはたらかせて」（絵画） ・水分量のコントロールの仕方、三原色による混色の仕方を学ぶ ・水彩画の技法を学び、表現に生かす	8	・刺激や感覚のイメージを豊かに広げながら、自分の伝えようとする構想をまとめる。 ・絵の具や用具の基本的な扱いを身につけ、描画材料の特性を理解し、自分の表したい色をつくる。 ・形・色・材料から分析的に鑑賞することができ、自他の感相互鑑賞じ方の相異や、個性のよさに気付くことができる
	7	「形を感じて」（鑑賞） ・日用品を鑑賞し、形の特徴からそれぞれに適したキャラクターを考える。	2	・形を比較鑑賞し、形のもつはたらきを感じ取るとともに多様な見方感じ方を広げる。
	8	《第２回考査》		
	9	「スケッチに挑戦」（絵画） ・身近な自然物や生活用品を見つめ、鉛筆を使ってスケッチする。	9	・基本的な対象のとらえ方を理解し、観察方向やトリミングなどを工夫する。 ・互いのスケッチ作品を鑑賞し、視点の工夫や表現の多様性に気づく。
後期	10	「色を感じて」（鑑賞） ・色の属性やはたらきについて学ぶ	2	・色の属性やはたらきに対して興味関心を持つ。 ・色を比較鑑賞し、色のもつはたらきを感じ取る。
	11 12	「文字のデザイン」（デザイン） ・『永』を描き、レタリングの基礎を知る。 ・レタリング字典を使って、漢字・アルファベットなどの文字の種類を知り自分の名前をレタリングで表現する。 ・文字の形や意味からイメージを広げ、絵文字を制作する。	8	・形や色、材料などをはたらきや特徴を生かして、表現を追究する。 ・互いの作品の工夫やよさを感じ取ることができると共に、漢字の多様な書体を鑑賞し、記録媒体と目的によって、デザインされていることを感じ取る。
	1	「暮らしに生きる木の命」（工芸） ・木を使って日用品を制作する。 ・刃物の使い方や木工の技法を学ぶ。	１０	・使用する人の気持ちを考え、使いやすさと美しさを兼ね備えたデザインを構想する。 ・木の特性を理解して、加工方法や用具などを適切に考えて制作する ・機能と美しさの調和、使う人に対する作者の心づかい、木に親しんできた我が国の文化の特性などを感じ取る。
	2	「粘土で立体造形」（彫刻） ・粘土を使って立体作品を制作する。	１０	・自然物や身近にあるものを見つめ、形や色彩、質感などの特徴などから主題を生み出す。 ・構成や材料、用具を工夫して立体で表現する。 ・互いの作品の工夫やよさを感じ取ることができる
	3	《学年末考査》		
		総　時　間　数	50	

教　科　名	年間授業時数	学　年
保健体育	保健　17時間 体育　100時間 計 117時間	中１

授　業　形　態	指　導　者　名
２クラス合同・１クラス単独・３学年合同（縦割り）	手島　貴教・内藤　貴子

教科書（発行所）	保健体育（　大修館　）
教科書以外の教材（発行所）	体育実技書（　学研　）

目　　標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
学習のねらい	《体育分野》 １・体つくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する ①　自己の体に気付く ②　自己の体の調子を整える ③　仲間と交流する ２・器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう ３・陸上競技 速く走る・遠くへ（高く）跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう ４・球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう ５・武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする ６・ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする ７・体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する 体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する 《保健分野》 １・心身の発達と心の健康 心身の発達と心の健康について理解できるようにする ア・身体の機能は年齢と共に発達すること イ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成

	熟すること ウ・知的機能・情意機能・社会性など精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされていること エ・心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処するとともに心身の調和を保つことが大切であること。また、欲求やストレスへの対処の仕方に応じて、精神的・身体的に様々な影響が生じることがあること

定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する	
	範囲（予定）	第１回考査	なし
		第２回考査	体つくり運動・陸上競技・球技・保健等
		第３回考査	なし
		第４回考査	なし
		学年末考査	保健・球技・武道・器械運動等

評価の観点・評価の方法	《体育分野》 ・評価の観点は、体育への関心・意欲・態度、自分やチームの能力に応じた課題を設定して努力しているかという思考・判断、実践している運動種目に応じた技能を身につけているかという運動の技能、実践している種目の特性に応じ効果的な練習の仕方・ルール・審判法・競技会の企画・運営の仕方を理解し、知識を身につけているか ・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価していく ・毎時間が評価の対象であり、学期に数回の技能テストも行う 《保健分野》 ・評価の観点は、保健への関心・意欲・態度、身体や精神発達について自分自身で理解しようとしているかという思考・判断、心身の発達や心の健康について理解し、知識を身につけているか ・評価の方法は、定期考査、ノート提出、レポート提出、出席状況に等により総合的に観点別に評価していく
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	《体育分野》 ・事前に授業内容を聞きに来る ・更衣を早くし、授業には遅刻しない ・体調の自己管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る ・忘れ物をしない 《保健分野》 ・提出物は必ず出す 　レポート・ノート等の点数の配点は大きいので気をつける ・忘れ物をしない

年　間　授　業　計　画　表（４５分授業）				
学期	月	学　習　内　容	時数	学習のポイント
前期	4	・体つくり運動（体ほぐしの運動）	2	・自己の体に気付き、仲間と交流する
	5	・ダンス（フォークダンス）	4 6	・互いに協力しながら練習を行う。上級生と下級生の交流を深める
	6	・体つくり運動（体力を高める運動） ・陸上競技（短距離走・リレー）	１４	・互いに協力しながら、体力を高める ・安全に留意し、基本技術を習得する ・お互い協力しながら、手際よく測定できるようにする
		・球技（バドミントン） （ソフトテニス）	8	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う
	7 8	《第２回考査》		
後期	9	・器械運動（マット、跳び箱）	１５	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う ・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
		武道（剣道）	１５	・安全に留意し、基本技術を習得する
		・心身の機能の発達と心の健康	１７	・生活の中での生かし方を理解する
	10 11	・武道（剣道）	１５	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う
		・体育理論	4	・運動について理解を深める
	12	・器械運動（マット跳び箱）	１５	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う ・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
	1	・陸上競技（長距離走）	１５	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする
	2	・球技（サッカー：男子） （ソフトボール：女子）	1６	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする ・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う ・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。また、チーム内での役割分担を行う
	3	《学年末考査》		
		総　時　間　数	117	体育　100時間　保健　17時間

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）	39	1

授業形態	指導者名
一斉授業	宮木　秀樹

教科書（発行所）	技術・家庭　技術分野（　開隆堂　）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（　開隆堂　）

目　標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。		
学習のねらい	A　材料と加工に関する技術 （1）生活や産業の中で利用されている技術について，次の事項を指導する。 ア　技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること。 イ　技術の進展と環境との関係について考えること。 （2）材料と加工法について，次の事項を指導する。 ア　材料の特徴と利用方法を知ること。 イ　材料に適した加工法を知り，工具や機器を安全に使用できること。 ウ　材料と加工に関する技術の適切な評価・活用について考えること。 （3）　材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作について，次の事項を指導する。 ア　使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えること イ　構想の表示方法を知り，製作図をかくことができること。 ウ　部品加工，組立て及び仕上げができること。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に，技術・家庭ノート，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	実施しない
		第2回考査	・生活や社会における技術の役割 技術を見つけよう，技術とわたしたちの生活，技術分野の学習 ・材料と加工に関する技術 ものづくりの工夫と進め方，材料，設計
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
		学年末考査	・材料と加工に関する技術 製作，材料と加工に関する技術とわたしたち
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，「生活や技術への関心・意欲・態度」，「生活を工夫し創造する能力」，「生活の技能」，「生活や技術に関する知識・理解」の４項目である。 ○具体的な評価は，定期考査，技術・家庭ノート，授業中での作品，教材プリント，レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方など）	技術は，実践的・体験的な学習活動を通して，ものづくりやコンピュータの活用や情報モラルに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに，ものづくりや情報に関する学習を通して，将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につける学習です。 技術が果たす役割について理解を深め，それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して，将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につけましょう。		

年間授業計画表（４５分授業）				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	ガイダンス	1	・小学校の学習の振り返り ・身近な生活にはどのような技術があるかを知る。 ・技術が生活の向上や産業の発展に影響を及ぼしてことを知る。 ・持続可能な社会の必要性と技術とのかかわりについて知る。 ・技術分野で３年間を見通した学習内容をイメージする。
		・技術を見つけよう ・技術ってすばらしい ・技術とわたしたちの生活		
		ものづくりの工夫と進め方 ・製品の工夫と技術の進歩	1	・技術の進歩について考える。 ・ものづくりの進め方について知る。
	5	材料 ・さまざまな材料 ・材料の特徴 ・材料と環境のかかわり	3	・身の回りにある製品に使われている材料の種類を知る。 ・木材・金属・プラスチック，それぞれの特徴を知る。 ・製品の用途や使いやすさを考える。 ・材料と環境のかかわりを知り，材料の使い方について考える。
	6	設計 ・設計の進め方 ・使用の目的と製品の決定 ・材料，機能，構造を考える ・加工方法，接合方法と仕上げ方法を考える	4	・ものづくりに取り組むときに必要な設計の進め方を理解する。 ・目的を定めて，つくりたい製作品を決める。 ・使用の目的から，大きさ，使いやすさ，などの機能を考える。 ・じょうぶにするための構造を理解し，製作品の構造を考える。 ・さまざまな種類の材料の特徴を知る。 ・さまざまな加工法を知り，製作品の加工方法を考える。 ・接合方法を知り，製作品の接合方法を考える。
	7	・製図　《第２回考査》	3	・製作品を図に表す方法を理解し，製作品の構想を図に表す。
	9	製作	２４	
後期	１０	・製作の進め方 ・部品表と工程表		・製作品の製作の進め方を理解する。 ・部品表，材料取り図，工程表を書く。
	１１	・けがき ・切断，切削		・けがきの役割と，切りしろ，けずりしろの必要性を知りけがく。 ・のこぎりの構造やしくみを理解し，正確にのこぎりびきをする。 ・仕上がり寸法線まで木材を削る技術を理解し，正確に削ることができる。
	１２	・穴あけ，ねじ切り ・部品の検査と修正，組立て		・穴あけのしくみを理解し，正確な穴あけをする。 ・さしがね，直角定規で部品の検査と修正をする。 ・接合方法と手順を確認しながら正確に組立てをする。
	1	・表面と角の仕上げ		・製作品の表面や角の仕上げをする。
	2 3	材料と加工に関するわたしたち ・社会・環境とのかかわり ・材料と加工に関する技術とわたしたちの未来 《学年末考査》 学習のまとめ ・製作の振り返り	3	・材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割について考え，理解を深める。 ・材料と加工に関する技術を適切に評価し，活用しようとする態度を身につける。 ・材料と加工に関する技術の学習を振り返り，技術との付き合い方を考える。
		総時間数	３９	

教　科　名	年間授業時数	学　年
技術・家庭科（家庭分野）	３９	１

授　業　形　態	指　導　者　名
前期：一斉授業　後期：一斉授業	青　山　ゆ　か

教科書（発行所）	技術・家庭　　家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用　技・家ノート　家庭分野（開隆堂）

目　　標	実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。		
学習のねらい	**A　家族・家庭と子どもの成長** （１）自分の成長と家族について，次の事項を指導する。 ア　自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 **B　食生活と自立** （１）中学生の食生活と栄養について ア　自分の食生活に関心をもち，生活の中で食事が果たす役割を理解し，健康によい食習慣について考えること。 イ　栄養素の種類と働きを知り，中学生に必要な栄養の特徴について考えること。 （２）日常食の献立と食品の選び方について，次の事項を指導する。 ア　食品の栄養的特質や中学生の１日に必要な食品の種類と概量について知ること。 イ　中学生の１日分の献立を考えること。 ウ　食品の品質を見分け，用途に応じて選択できること。 （３）日常食の調理と地域の食文化について，次の事項を指導する。 ア　基礎的な日常食の調理ができること。また，安全と衛生に留意し，食品や調理用具等の適切な管理ができること。 イ　地域の食材を生かすなどの調理を通して，地域の食文化について理解すること。 ウ　食生活に関心をもち，課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し，計画を立てて実践できること。		
定期考査	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリントからも出題する。	
	範　囲（予定）	第１回考査	なし
		第２回考査	わたしたちの成長と家族、健康と食生活
		第３回考査	なし
		第４回考査	なし
		学年末考査	食品の選択と保存、調理をしよう
評価の観点・評価の方法	・評価の観点は家庭科への「関心・意欲・態度」「工夫・創造」「技能」「知識・理解」の４点とする。 ・考査、発表、学習態度、課題の提出状況などから総合的に評価する。		
先生からのアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートのとり方など）	・忘れ物をしない。 ・人の話を集中して聞く。 ・時間を守る。 ・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。		

年間授業計画表（45分授業）				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
	4	○自立に向かって(ガイダンス)	1	・小学校の家庭科をふり返り、中学校3年間の学習の見通しをもつ。
		○わたしの成長と家族・地域		
		①わたしの成長	1	・自分の成長をふり返ることができる。
	5	②わたしを支えてくれた家族や周囲の人々	1	・自分の成長と家族や家庭生活のかかわりについて考える。
		○健康と食生活		
		①食事の役割について考える	1	・自分の食生活に関心をもつ。
		②生活習慣と食事	1	・自分の食生活を振り返り、その問題点の解決策を考える。
	6	③中学生に必要な栄養	2	・青少年の栄養の特徴と食事摂取基準を知る。
		④栄養素のはたらきと食品	2	・食品の栄養的特質を理解し、食品を食品群に分類する。 ・栄養素の種類とはたらきを理解する。 ・食品群別摂取量のめやすについて理解する。 ・食品の概量を知る。
	7		3	・献立の立て方について理解する。
		⑤食事の計画		・食品群別摂取量のめやすを利用して1日分の献立を立てることができる。 （後日、昼食の弁当を家庭でつくり、持参する。） ※持参する日程については、前もって連絡します。
		〈第2回考査〉		
		○食品の選択と保存		
	8	①生鮮食品と加工食品	3	・生鮮、加工食品とは何かを理解し、選び方がわかる。
	9	②食品の表示	2	・食品表示の意味を知る。
		③食品の選択・購入と保存	1	・食品の鮮度や表示を見分け、選択でき、適切な保存の仕方がわかる。
		④食品の安全と情報	1	・情報を正確に読み取り、自分で判断できる。
	10	○調理をしよう		
		①調理の計画	1	・安全と衛生に留意し、環境にも留意した調理実習について理解する。 ・調理実習に必要な計器や調理器具の正しい使い方を理解する。
		②調理の基本	3	・包丁の使い方を知り、いろいろな切り方ができるようになる。 ・調理に必要な機器や調理器具を正しく扱うことができる。
	11			・盛り付けや食事のマナーについて理解する。
		③肉の調理 「豚肉のしょうが焼き」	3	・肉の特徴について理解する。 ・肉の選び方を理解し、購入する際に役立つ能力を身につける。
	12			・肉の基本的な調理操作や調理器具の扱いを適切に行うことができる。
		④魚の調理 「魚のムニエル」	3	・魚の特徴について理解する。 ・魚の選び方を理解し、購入する際に役立つ能力を身につける。
	1			・魚の基本的な調理操作や調理器具の扱いを適切に行うことができる。
		⑤野菜の調理 「筑前煮」	3	・野菜の特徴や新鮮な野菜の選び方を理解する。 ・野菜の調理上の性質を知り、その性質を生かした調理ができる。 ・野菜の適切な取り扱いができ、安全と衛生に留意しながら能率よく協力して調理実習ができる。
		〈学年末考査〉		
		○地域の食材と食文化		
	2	①地域の食材と郷土料理	1	・地域で生産されている食品を知る。
		②受け継がれる食文化	1	・行事食について知る。
		③地域と世界に目を向けて	1	・日々の食料の現状と問題点を理解する。
	3	○生活の課題と実践B	5	・自分や家族の食生活の課題を見つけて課題を解決し、生活に生かす。
		総時数	39	

教　科　名	年間授業時数	学　年
英　語　（英語・英語C）	156	1

授業形態	指導者名
一斉授業	森安鋭子、Daniel Tovbis

教科書（発行所）	NEW HORIZON English Course 1（　東京書籍　）
教科書以外の教材（発行所）	E・NAVI（秀学社） LISTENING TRIAL prep（文英堂） 実力練成テキスト1（文理） 中高一貫テキストNEW TREASURE Stage1　Second Edition（Z会出版） NEW TREASURE 文法問題集1（Z会出版）

目　　標	外国語（英語）を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく養い、実践的コミュニケーション能力を身につける。		
学習のねらい	・言語の４領域（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 ・150語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・紹介・言い換え・論理的な自己表現などができる。 ・200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、100語程度のまとまった英語を書くことができる。		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehension は必ず行う方針である。	
	範囲（予定）	第１回考査	フォニックス、中高一貫テキストLesson1　検定教科書内容
		第２回考査	中高一貫テキストLesson 2~3　　検定教科書内容
		第３回考査	中高一貫テキストLesson 4~6　検定教科書内容
		第４回考査	中高一貫テキストLesson 7~8　検定教科書内容
		学年末考査	中高一貫テキストLesson 9~10 検定教科書内容
評価の観点・評価の方法	評価の観点は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、言語や文化についての知識・理解の４項目とする。 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業ファイルの作成と提出、小テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	言葉の習得においてまず大切なのは、音声です。そして、音と文字の関係を押さえながら、「書くこと」によって学習内容を強化していきます。授業中では「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合しながら行います。授業中はしっかりと声に出して発音してください。様々なコミュニケーション活動や音読練習に積極的に参加しましょう。また、ペアやグループによる学び合いを大切にしましょう。積極的に挙手をして発表し、授業で学んだことはファイルノートにしっかりとメモを取り、理解に努めましょう。家庭では、①音読復習②ファイルノートの見直し③ワークで書く練習④小テストに向けた単語・本文練習などの復習を行いましょう。そして、次の授業の予習①単語調べ②本文訳をしてくるようにしましょう。毎日続けることが大切です。ＡＬＴの先生の授業（英語C）もあります。間違いを恐れず、学んだ英語をどんどん使っていきましょう。		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容				時数
前期	4	Hi, English! **Unit 0** アルファベット **Unit 1** はじめまして	・あいさつ、教室で使う英語、身のまわりのもの ・アルファベット、音とつづり ・I am / You are 疑問文・否定文	Let's Start! Word Library **Lesson1**	・be動詞の文（文の形）	18
	5	《 第1回考査 》				
		Unit 2 学校で **Unit 3** わたしの好きなこと **Listening Activity 1** 何のCM?	・This(That) is～. ・He (She) is～. ・一般動詞 疑問文・否定文	**Lesson2** My family **Lesson3** Hello, from around the World	・He(She)is～. /What is～? /形容詞、Who is～?,　A or B ・一般動詞の文 否定文・疑問文・ What do you～?,　代名詞	14
	6	《 第2回考査 》				
		Unit 4 ホームパーティ **Presentation 1**	・名詞の複数形、数 How many～?、命令文、Let's～. ・自己紹介	**Lesson4** Interview with a Sushi Chef in the US	・単数と複数 ・複数形、How many～? 代名詞	14
		《 サマーチャレンジ 前半 》 [夏季休業中] 《 サマーチャレンジ 後半 》				
	7 8 9	**Unit 5** 学校の文化祭 **Daily Scene 1** **Unit 6** オーストラリアの兄 **Daily Scene 2** **Listening Activity 2** 友だちのプロフィール	・What is ....? ・体調をたずねる ・三人称単数現在形 ・電話の会話	**Lesson5** Smithonian National Zoo	・疑問文 ・一般動詞の文（3単現） 否定文・疑問文・疑問詞 Where～? / When～?	28
後期	10	**Unit 7** ブラジルから来たサッカーコーチ **Daily Scene 3**	・疑問詞 (Who, What time, Which) ・グリーティングカード	**Lesson6** Life in Mongolia	・疑問詞　How＋形容詞～? Whose～? / How many～? / Who～? / Which～?	14
		《 第3回考査 》				
	11 12	**Unit 8** イギリスの本 **Daily Scene 4** **Unit 9** チャイナタウンへ行こう **Daily Scene 5** **Listening Activity 3** 電車のトラブル発生. **Presentation 2**	・疑問詞(Where , Whose) ・ウェブサイト ・現在進行形 ・Don't ～. / Be ～. ・道案内 ・一日の生活	**Lesson7** Volunteer Activities **Lesson8** Hospital Clowns	・命令文 ・canを用いた文・否定文・疑問文 ・現在進行形	28
		《 第4回考査 》				
	1	[冬季休業中]				
	2 3	**Unit 10** あこがれのボストン **Daily Scene 6** **Unit 11** 思い出の一年 **Daily Scene 7** **Listening Activity 4** 休暇中の出来事 **Presentation 3** **Let's Read** The Restaurant with Many Orders	・can の文、When～? ・ちょっとお願い ・規則動詞、不規則動詞 ・絵はがき ・思い出の行事 ・速読（物語）	**Lesson9** Greetings from Alaska **Lesson10** Alex's Lemonade	・一般動詞の過去形（規則） ・否定文・疑問文 ・不規則動詞の過去形 ・be動詞の過去形 ・過去進行形 ・特別用法のit	28
		《 学年末考査 》				
		補充学習				12
		《 スプリングチャレンジ 》				
		総時間数				156

教　科　名	年間授業時数	学　年
サイエンス	39	1

授　業　形　態	指　導　者　名
一斉授業・分割授業（１学級を２講座）	橋田千寿　宮木秀樹　奥野晃司　武下晃慎

目　　標	科学が社会生活において果たしている役割に目を向け，実験・観察・数学的活動を通じて，科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに，一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって，探求すること，説明をすること，根拠付けをすることなど問題の解決や探求活動に必要なスキルを身に付け，学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより，科学的思考力や創造力を養う。
学習のねらい	①英語によるサイエンストピック授業を通して知的好奇心を高める。 ②博物館連携授業を展開し，サイエンスインタープリターとしてのプレゼンテーション実習を行う。 ②論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって，認知能力の促進・加速を図る。 ③グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ，批判的思考，複眼的思考，分析的思考操作の方法を身に付ける。
評価の観点	①サイエンスプレゼンテーションに興味をもつ。 ②課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身についている。 ③課題を解決するために実証的，論理的に考えたり，分析的，総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ④形式的思考操作ができる。 ⑤他者の意見を論理的な思考によって判断し，その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ⑥自分の意見を適切にまとめ，効果的な発表ができる。
先生からアドバイス（授業の受け方、ノートの取り方など）	・積極的に授業へ参加し，自ら学び，自ら表現する力を身に付けましょう。 ・答えが一つには決まらない課題がたくさん出てきます。柔軟な発想で様々な可能性をしっかり考えましょう。 ・友だちとの議論を通して，批判的，複眼的，分析的に考え，自分の意見と自己決定力をもつようにしましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法をサイエンスでも利用して，意見が言えたり，文章が書けたりするようになりましょう。

年　間　授　業　計　画　表　（４５分授業）

学期	月	学　習　内　容	時数	学習のポイント
前期	4	・CASE（CognitiveAcceleration throghScienceEducation） 【変わるものは何か】（1）	2	・様々な例を通して，「変数」「値」「関係」と　いう言葉と概念を理解する。 ・「入力変数」と「結果の変数」という言葉を使って２つの変数の間の関係が説明できるようにする。
	5	【２つの変数】（2） 【どんな種類の関係か】（3）	2 2	・「２つの変数の間の関係の表し方」としてグラフを用いることができるようにする。
		【「公正な」テスト】（4）	2	・「変数のコントロール」という操作ができるようにする。
	6	・ネットワークのルール説明 ・ｲﾝﾀﾌﾟﾘﾀｰ養成基礎講座	2 3	・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ情報の扱いの基礎を身に付ける。 ・文献やｲﾝﾀｰﾈｯﾄを使って情報を収集することができる。 ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの技能を身に付ける。 ・ｲﾝﾀﾌﾟﾘﾀｰ（展示物解説者）としての技能を身に付ける。
	7	【転がるボール】（5）	3	・「思考練習」ができるようになることによって，実験の計画を立てる力を身に付ける。
	8 9	【グループ分けをする】（6）	2	・集合の考え方を導入し，ものをだんだん小さなグループに分けることができるようになる ・さらに，カテゴリー化することが何の役に立つのかを理解する。
		【さらにグループ分けをする】（7）	1	・より複雑な分類ができるようにする。
後期	10	【歯車と比率】（8）	1	・比例性の概念とそれに伴う縮尺と比率の概念を理解する。
		【反比例性】つりあいを保つ（9）	1	・二つの変数の間に増減の逆関係があるものについて調査を行い，関係性を考える。
	11	【反比例性】幹と枝（10）	2	
		【反比例性】つりあいを保つ（11）	2	・おもりの重さと支点からの距離を調べ，反比例性を導入する。
	12	【反比例性】電流，長さ，厚さ（12）	2	・電流と抵抗の間の反比例性を調べ，反比例の概念を確立する
	1	【蓋然性】豆のサンプリング（13･14）	2	・母集団を代表するような標本集団に必要な標本数を調べ，標本抽出の初歩的な概念を持つ。
		【組み合わせ】選択肢（15）	2	・すべての場合の数え上げを行う。
	2	【変数】相互作用（16）	2	・酵母菌，鉄さびについての実験を通して，二つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。
	3	【蓋然性】コインを回す（17）	2	・コインの表が連続して出る頻度と試行回数の関係を調べ，確率的現象の振る舞いを知る。
		課題研究発表会に参加する	4	
		総　時　間　数	３９	